

日本社会科教育学会

第 72 回全国研究大会（信州大会）のご案内（2 次案内）

オンライン開催

日本社会科教育学会会長 大澤 克美
全国研究大会実行委員長 松本 康

社会科が日本の学校教育に誕生して約 75 年になります。社会科は、子どもたちの「できるだけ立派な公民的資質を発展させ」、子どもたちの生きる社会をより良いものにするという使命を持って誕生しました。その間、子どもが生きる地域社会の状況は大きく変化し、そこには様々な課題があります。こうした中で、学校教育に求められているのは、地域の課題に向き合い、自分たちの未来を創造していく子どもをどう育てるかではないでしょうか。今、社会科教育には何ができるでしょうか。

信州では、課題解決に向け、子どもから大人までが自ら行動し、影響し合い、自然環境や地域に働きかける実践的・協働的な「学び」を大切にしてきました。信州の社会科教育の歩みも、まさにこのような「学び」を大切に、子ども一人ひとりが地域と共に成長する営みでありました。

以上を踏まえ、第 72 回大会の主題を「地域の課題に向き合う子どもを育てるために社会科教育には何ができるか。」としました。信州の地から、子どもの未来を見据えながら、会員の皆様と社会科のこれからを考える機会になることを願っております。

1. 大会主題 地域の課題に向き合う子どもを育てるために社会科教育には何ができるか。
2. 期 日 2022（令和 4）年 10 月 22 日（土）・23 日（日）
3. 会 場 オンラインによる開催（ビデオ会議システム Zoom）
4. 主 催 日本社会科教育学会 日本教育大学協会全国社会科部門
5. 後 援 長野県教育委員会 長野市教育委員会 公益社団法人信濃教育会
公益社団法人長野上水内教育会 信州社会科教育研究会

6. 日 程

第 1 日 10 月 22 日（土）

8:30	9:00	12:00	13:30	16:00	16:15	17:00
受付	自由研究発表 I	昼食 評議員会	シンポジウム	休憩		総会

第 2 日 10 月 23 日（日）

8:30	9:00	12:00	13:00	15:30
受付	自由研究発表 II	昼食	課題研究発表	

※自由研究発表は、移動時間と報告者の資料準備のため、5 分ずつ間隔を空けて実施します。各分科会の発表順・発表時間は次の通りです。

- (1) 9:00～9:30 (2) 9:35～10:05 (3) 10:10～10:40 (4) 10:45～11:15 (5) 11:20～11:50

プログラム

第 1 日

2022 (令和 4) 年 10 月 22 日

自由研究発表 I

9:00~12:00

自由研究発表 I – 第 1 分科会

司会者 東海大学 齊藤 仁一郎
宮崎大学 吉村 功太郎

(1) 社会的課題の解決に向けて選択・判断する力の育成を目指す指導
ー 単元「Society5.0×Education3.0」の授業実践を通じてー

静岡県磐田市立磐田南小学校 高木 裕之

(2) 中学校社会科における政治的リテラシーを育む単元「地方自治」の構想と実践
ー 「総合計画」を教材としてー

長野県佐久市立望月中学校 高野 昌生

(3) 論争問題学習における教師の影響力
ー 被選挙権年齢引き下げを検討する授業を事例としてー

鹿児島大学 岩崎 圭祐

(4) 「声を失う」存在を掘り起し持続可能な社会形成をめざす高校生 Consortium の実践研究
東京経済大学 大滝 修

(5) アレント、H の公共哲学を社会科教育に援用する際の課題

お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所研究協力員 岡田 泰孝

自由研究発表 I – 第 2 分科会

司会者 宇都宮大学 溜池 善裕
大阪教育大学 峯 明秀

(1) 社会科授業開発・実践における「子ども像」の再検討
ー 社会科議論型学習による市民の育成を目指してー

広島大学大学院 田中 峻斗
独立研究者 奥村 尚

(2) 社会科授業実践に見る子どもの社会認識の発達特性と、それに基づく授業づくりのあり方

東京学芸大学附属竹早小学校 恒川 徹

(3) 低位層の子どもたちの学力をいかに保障するか
ー 母語中国語の子どもたちに着目してー

小谷村立小谷中学校 中山 南斗

(4) 児童の「きく」力は社会科の学力に影響を及ぼすか

八王子市立松木小学校 宮内 健

(5) 発話テキストによる社会認識の三次元構造描出アプローチ

ー複数の要素間に見いだされる結合様態の記述方法に関してー

大阪教育大学 飯島 敏文

自由研究発表 I ー第3分科会

司会者 常葉大学 鎌田 公寿
広島大学 草原 和博

(1) ケアの視点に基づく社会科教育開発

ートロントの理論に依拠した授業開発研究ー

上越教育大学大学院 米山 翔真

(2) グローバル化した社会を学ぶ小学校社会科学習

ー食料の輸出入を事例に食料生産の発展を考えるー

豊島区立目白小学校 生沼 夏郎

(3) グローバル化する社会の見方を深める社会科学習の在り方

ー小学校6年生「世界と未来と日本の役割」の実践を通してー

船橋市立行田西小学校 柳 圭一

(4) グローバル化した社会を学習する小学校社会科学習

ー未来に向けた福島の食料生産ー

福島大学附属小学校 板倉 正哉

(5) 脱炭素社会を目指す小学校社会科のカリキュラム構想

皇學館大学 萩原 浩司

自由研究発表 I ー第4分科会

司会者 広島大学 永田 忠道
東京学芸大学 渡部 竜也

(1) 小学校教師をめざす学生が取り組んだ「子どもの貧困問題」の授業づくり

愛知学泉大学 竹澤 伸一

(2) 地域から学ぶ主体的・対話的で深い学び

ー教員養成の現場からー

大阪経済大学非常勤講師 石原 幸一

(3) 国立大学附属学校社会系教科目教員の教育実習指導観について

ーインタビューデータの分析からー

群馬大学 栗谷 好子

(4) 大学における模擬投票を活用した主権者教育とその効果

岩手県立大学 市島 宗典

- (5) 教員志望学生が協働的に社会科観を問いなおすことの良さと難しさ
 -P4Cを導入した社会科教員養成の試みを通して-

広島大学 川口 広美
 広島大学大学院 田中 峻斗
 鹿児島大学 福井 駿

自由研究発表 I - 第 5 分科会

司会者 明治学院大学 佐藤 公
 愛知教育大学 真島 聖子

- (1) 複数事例の比較から「どっちも同じ」に気付く単元構成の工夫
 -効果的なタブレット端末の活用を通して-

新潟市立亀田小学校 大沼 達郎

- (2) 社会科授業における ICT を活用した社会参加学習
 -シミュレーション教材 iCivics の分析を通して-

筑波大学大学院 古川 隼

- (3) 社会科授業において「望ましくない社会的状況」をシミュレーションすることの学習効果
 -「陰謀論」から科学の社会的意義を考えるゲーム教材の実践を踏まえて-

千葉経済大学 馬場 大樹

- (4) インスタグラムを活用した主権者教育
 -生徒が情報発信の行為主体になるパフォーマンス課題-

東京学芸大学附属国際中等教育学校 楊田 龍明
 東京都立井草高等学校 杉浦 光紀

- (5) 小学校社会科デジタル教科書を活用した授業開発に関する批判的考察

常磐会学園大学 井上 敏孝

自由研究発表 I - 第 6 分科会

司会者 帝京大学 鎌田 和宏
 茨城大学 木村 勝彦

- (1) 社会科歴史における主体的な学びの評価
 -児童解釈型歴史学習における自学の重要性-

武豊町立緑丘小学校 氏家 拓也

- (2) 生徒の「歴史的な見方・考え方」を用いた問題解決能力の育成を目指す授業の構想
 -単元内自由進度学習を手がかりとして-

長野県須坂市立東中学校 矢澤 拓真
 信州大学教育学部附属長野中学校 武井 正樹
 信州大学 篠崎 正典

- (3) コロナ禍における授業の工夫
 -「単元内自由進度学習」の試み-

東根市立第一中学校 関東 朋之

- (4) 社会科教育と個に応じた指導
 - 「個別化」「個性化」の再検討-

桜花学園大学 松永 康史

自由研究発表 I - 第7分科会

司会者 千葉大学 戸田 善治
 玉川大学 宮本 英征

- (1) レリバンスの視点をふまえた中学校歴史的分野のカリキュラム
 - 明治時代を例に -

筑波大学附属中学校 山形 友広

- (2) 歴史修正主義に抗する授業実践
 - 諸資料から実態を学び、対話的な学習を通じて認識を深める -

埼玉県立大宮東高等学校 今 陽童

- (3) 高校世界史の教育内容開発
 - 「天国と地獄」を題材として -

佐賀県立佐賀北高等学校通信制 堤 敏浩

- (4) 日中の高校生の日中関係史に関する思考についての比較調査研究
 - 相互理解に向けた「歴史的意義」概念の転用 -

岡山大学大学院 劉 旭
 国立特別支援教育総合研究所 鈺 悠介

- (5) 「困難な歴史」の教育的価値の探求

広島大学 金 鍾成
 広島大学大学院 小野 創太

自由研究発表 I - 第8分科会

司会者 宇都宮大学 熊田 禎介
 東洋大学 須賀 忠芳

- (1) 多角的なものの見方を育成するアナザー・ストーリーの社会科授業
 - 教材世界における児童の立場と当事者性の検討 -

筑波大学附属小学校 粕谷 昌良

- (2) 「城郭」概念の描写によって歴史文化を可視化する中学校歴史学習の開発・実践
 - 単元「1000年以上も昔の過去を知るための方法と注意点について知ろう！」を事例に -

広島大学大学院 玉井 慎也
 太宰府市立太宰府西中学校 高松 尚平

- (3) 歴史総合における「資質・能力ベース」のカリキュラムデザイン
 - 「CBFCLC」デザインの理論と実践 -

愛媛大学大学院 兵藤 清一
 高知県立高知北高等学校 片山 裕吾

(4) 歴史教育に芸術系ワークショップを組み込んだ授業実践

－体験的な歴史の授業としての意義－

東京大学教育学部附属中等教育学校・東京大学芸術創造連携機構 南澤 武蔵

自由研究発表 I – 第 9 分科会

司会者 早稲田大学 池 俊介
茨城大学 村山 朝子

(1) 地理的概念を用いて地域像を批判的に再構成する小学校社会科地誌的学習

－場所概念を組み込んだ新たな地誌学習の提案－

学習院初等科 大矢 幸久

(2) 自分の地域と比較し、さまざまな人から学ぶ小学校中学年の地理的単元の展開

－3年「新宿区の様子」から4年「東京都の特色ある地域」へ向けた関連付けた指導－

江戸川区立大杉第二小学校 柳沼 麻美

(3) 中学校社会科地誌学習における生徒の「社会的事象を多面的・多角的に考察する力」の

高まり－「世界の諸地域」から「日本の諸地域」学習への学びの展開に着目して－

信州大学教育学部附属長野中学校 武井 正樹

信州大学教育学部附属長野中学校 富田 武

信州大学教育学部附属長野中学校 丸山 進一

信州大学 篠崎 正典

(4) 教職自然地理学における事象の関係性を考える授業開発と成果

北翔大学短期大学部 菊地 達夫

(5) 日本の中等地理教育における地球的課題に関する学習指導の特徴と課題

－システムティックレビュー－

千葉大学 阪上 弘彬

群馬大学 宮崎 沙織

静岡大学 山本 隆太

自由研究発表 I – 第 10 分科会

司会者 鳴門教育大学 井上 奈穂
福井大学 橋本 康弘

(1) 平等とは何か？

－ジェンダーに関する論争問題学習に取り組んだ生徒へのインタビュー調査分析－

清心中学校・清心女子高等学校 植田 啓生

東京都立小川高等学校 別木 萌果

(2) 中学校社会科公民的分野における「立憲主義」の取扱い

－教科書の記述に着目して－

越谷市教育センター 中台 正弘

(3) 高等学校公民科「倫理」における「思考力」の育成を図る授業の試み

－プラトン対話篇『メノン』教材とした「対話のあり方」の探究を通して－

北海道高等学校「倫理」「公共」研究会・北海道札幌南高等学校 佐藤 克宣

- (4) 「公共」における刑事法学習カリキュラム
 ー单元「責任主義にもとづく減刑は妥当か」を事例にー

埼玉大学 小貫 篤

- (5) 新科目「公共」の指導内容と方法における課題
 ー現代社会と比較してー

名古屋学院大学 國原 幸一郎

自由研究発表Ⅰー第11分科会

司会者 岩手大学 今野 日出晴
 都留文科大学 西尾 理

- (1) 太平洋戦争期の「慰問文」を用いた授業の試み

湘南白百合学園中学・高等学校 熊本 秀子

- (2) 地域教材の歴史学習への活用に関する研究(その1)
 ー千葉氏を活用した6年生歴史学習の実態調査ー

淑徳大学 伊原 浩昭

- (3) 歴史教育における地域素材を活用した戦争学習
 ー富山大空襲を事例としてー

上越教育大学大学院 竹内 佐和子

- (4) 1970年代・民間教育研究団体による「地域の掘り起こし」の実相
 ー小出隆司の「ぞうれっしゃがやってきた」の教材開発を中心にー

愛知東邦大学 白井 克尚

- (5) 地域における継承的アーカイブを活用した「次世代の平和教育」の構築
 ー横須賀市を事例としてー

秋田大学 外池 智

自由研究発表Ⅰー第12分科会

司会者 広島大学 木村 博一
 横浜国立大学 重松 克也

- (1) 近隣の農家の仕事に関する2つの小学校社会科授業
 ー第3学年の授業実践から考察ー

香川県宇多津町立宇多津北小学校 河野 富男

- (2) 小学校社会科におけるパフォーマンス評価に基づく单元設計
 ー小学校6学年「縄文のむらから古墳のくにへ」における学習課題の設定を事例としてー

愛知県みよし市立三吉小学校 森田 幸一郎

- (3) 日本の技術を生かした「ものづくり」に関するカリキュラム開発
 ー城下から生まれた手作りの江戸筆ー

立正大学 石橋 昌雄
 東京都板橋区立成増ヶ丘小学校 西谷 秀幸
 東京都葛飾区立東金町小学校 成田 香穂里
 東京都中野区立谷戸小学校 丸野 陽子

- (4) 将来につながる現代的な諸課題を踏まえて「選択・判断」する社会科学習
ー第4学年・単元「わたしたちのくらしとごみ」の実践を通してー

国士舘大学	秋田	博昭
大田区立入新井第五小学校	馬場	友博
明星大学	相原	雄三
世田谷区教育委員会	佐藤	智彦
新宿区教育委員会	辻	慎二
東京都教育委員会	國長	泰彦

- (5) 小学校社会科における「見方・考え方を働かせる」単元の開発
ー小4「循環」と「環境負荷」を中核概念としてー

山形大学	江間	史明
------	----	----

昼食

12:00～13:30

評議員会

12:00～13:30

地域の課題に向き合う子どもと社会科教育

〔趣旨〕

社会科における地域は子どもが生きる生活の場であると同時に、子どもが具体的な社会の課題に向き合い、働きかけを行いながら、公民としての資質を養うことを可能にする場でもあります。防災、新型コロナウイルス、少子化、持続可能性、SDGsなど、地域の課題は多くある一方、時間数確保、教員の多忙化などの問題などのために、地域の課題を扱うことは難しくなっています。また、GIGAスクールによる情報化は多量の情報へのアクセスを可能とする一方、子どもが地域の人・もの・ことに直接向かい合うことで生まれるリアリティーを奪いつつあるようにも見えます。社会科は地域の課題にどのように向き合ってきたのか。子どもに地域の課題はどのように見えているのか。地域の課題に向き合うことで、どのような未来を拓くことができるのか。本シンポジウムでは、これらの問題を多角的に検討してゆきます。

コーディネーター 島根大学 加藤 寿朗
信州大学 松本 康

シンポジスト・テーマ

- (1) 足もとを見つめ、足もとから考える信州社会科
ー郷土教育運動から学ぶー

筑波大学 伊藤 純郎

- (2) 子どもがつくる防災マップ
ー地域学習用アプリフィールドオンを使った取り組みー

信州大学 廣内 大助

- (3) 小学校での育ちを生かした「管理からの脱却」
ー学校づくりとリアリティーのある学びー

長野県伊那市立伊那中学校 中原 功博

- (4) 社会科における地域の課題の取扱い

国立教育政策研究所 磯山 恭子

自由研究発表Ⅱ

9:00～12:00

自由研究発表Ⅱ－第1分科会

司会者 筑波大学 伊藤 純郎
新潟大学 釜本 健司

- (1) 公民系教育における雇用保障の扱われ方について
－戦後公民系科目の教科書分析を通じて－

上越教育大学大学院 中世古 悠斗

- (2) 戦後初期の経験主義社会科の理論と思想的特質
－「コア」と「問題解決」を焦点とした森昭・広岡亮蔵の経験主義教育論の比較－

鹿児島大学 大野木 俊文

- (3) 愛知県三河地域における初期社会科実践
－実験学校を例に－

豊川市立御津南部小学校 行田 臣

- (4) 成立期社会科学習指導における「学習能力の発達」研究の展開
－長野県実験学校の「社会科学習能力の実験」に着目して－

信州大学 篠崎 正典

- (5) 市民性育成の視点に基づく日韓歴史教育理論の歴史的展開
－2000年代の『歴史教育』の分析を中心にして－

兵庫教育大学 福田 喜彦

自由研究発表Ⅱ－第2分科会

司会者 埼玉大学 桐谷 正信
山梨大学 服部 一秀

- (1) 教師はどのように博物館と連携すべきなのか
－アメリカの教師による実践を事例に－

筑波大学大学院 窪田 遥

- (2) 中国の社会系教科担当教師の信念形成に関する研究
－新教科「労働」に対する教科観を手掛かりとして－

岡山大学大学院 史 鵬宇

- (3) 現代フランスの歴史教育と学習指導要領

武庫川女子大学 大津 尚志

- (4) ドイツ地理教育におけるフィールドワーク教育の研究動向

静岡大学 山本 隆太

- (5) 欧州評議会が推進するシティズンシップ教育
 - Competences for Democratic Culture の理念を中心に -

帝京大学 五十嵐 卓司

自由研究発表Ⅱ－第3分科会

司会者 桐蔭横浜大学 谷田部 玲生
 仙台白百合女子大学 呂 光暁

- (1) 社会課題を解決する金融経済教育の実践開発研究
 - 中学校社会科における実践 -

上越教育大学大学院・長岡市立東中学校 山田 圭祐

- (2) 金融・経済リテラシーをはぐくむ単元開発に関する研究
 - 小学校社会科第5学年「わたしたちの生活と工業生産」を事例として -

信州大学 田村 徳至

- (3) 生徒の租税意識をよりよく育てる中学校地理学習の授業開発
 - タックスハイブン問題に注目して -

熊本大学 藤瀬 泰司

- (4) 税のしくみから社会を共に創る社会科授業の開発
 - 共感による関係性と主権者の自覚を育む租税教育 -

愛知教育大学 真島 聖子

- (5) 一般市民とエコノミストの経済に対する「見方・考え方」の相違
 - 経済教育は何をめざすか -

東洋大学 栗原 久

自由研究発表Ⅱ－第4分科会

司会者 お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所研究協力員 岡田 泰孝
 東北学院大学 坪田 益美

- (1) 社会科授業での熟議民主主義論に基づいた話し合い活動の検討
 - 語用論における発話の含意を視点として -

筑波大学大学院 田邊 怜

- (2) 小学校社会科における主権者としての資質・能力を高める授業実践
 - 時系列型と因果律型の学習比較を通して -

浜松市立瑞穂小学校・静岡大学教職大学院 本榎 亮介

- (3) 高校3年生の投票行動
 - 7年間の政治知識・意識調査と保革イデオロギー -

上宮高等学校 田中 智和

- (4) 主権者として主体的に課題を解決しようとする生徒の育成Ⅳ

江東区立深川第七中学校 仲村 秀樹
 八王子市立上柚木中学校 源田 洋二郎
 品川区立日野学園 原 聡
 荒川区立第九中学校 一刎 めぐみ

- (5) 生徒が社会で起こっている出来事を自分に引き寄せる授業
 -男女平等について考える-

長野市立長野中学校 中村 広登

自由研究発表Ⅱ－第5分科会

司会者 東京学芸大学 荒井 正剛
 高千穂大学 鈴木 隆弘

- (1) ESDの視点による小学校社会科のカリキュラム観再考
 -本質的な問いを中心とした実践に向けて-

中央大学大学院 津山 直樹

- (2) 小中高を見通したエネルギー環境学習の実践的研究
 -秋田の地域資源活用を手がかりにして-

秋田大学 加納 隆徳

- (3) 小学校社会科における持続可能な地域のあり方を考える食文化の教材化
 -京都府宇治田原町の古老柿生産に着目して-

奈良学園大学 澁谷 友和

- (4) エネルギー・ライフラインの視点を生かした小学校社会科学習
 -5年・単元「自然災害」での実践を通して-

新潟市立亀田小学校 裏田 雄大

- (5) 平和な世界における安定した電力供給を考える中学校社会科公民的分野の授業
 -中項目「世界平和と人類の福祉の増大」を事例として-

広島修道大学 永田 成文
 皇學館大学 萩原 浩司
 亀山市立亀山中学校 増田 直史

自由研究発表Ⅱ－第6分科会

司会者 信州大学 小山 茂喜
 静岡大学 村井 大介

- (1) 社会科若手教師の指導体験記録の事例分析による専門性発達に関する一考察
 名古屋大学大学院 出井 伸宏

- (2) 学校教育と資料保存利用機関の連携について
 -高校・大学における実践と課題-

新潟大学非常勤講師 竹田 和夫

- (3) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る社会科学習の可能性
 -「単元を見通す学習問題」と「本気の学習問題」の追究を通じた個性的な理解の実現-

関東学院大学 西川 健二
 横浜市立幸ヶ谷小学校 宗像 北斗
 横浜市立西富岡小学校 金井 伸一
 横浜市立西富岡小学校 比嘉 将来

(4) 高等学校社会系教科教育における高大連携授業の成果と課題

－特設科目「社会科学入門」の取り組みを通して－

専修大学松戸高等学校 泉 貴久

自由研究発表Ⅱ－第7分科会

司会者 上越教育大学 茨木 智志
岡山大学 山田 秀和

(1) 歴史総合につながる中学校歴史カリキュラム開発 (Ⅰ)

－大項目「近代化と私たち」との接続－

中野区立明和中学校 金子 遥
京都市立桃山中学校 弘田 真基
大阪経済法科大学 田中 曜次

(2) 歴史総合につながる中学校歴史カリキュラム開発 (Ⅱ)

－大項目「国際秩序の変化や大衆化と私たち」との接続－

京都市立桃山中学校 弘田 真基
中野区立明和中学校 金子 遥
大阪経済法科大学 田中 曜次

(3) 歴史総合につながる中学校歴史カリキュラム開発 (Ⅲ)

－活動的な歴史学習の系統性－

大阪経済法科大学 田中 曜次
京都市立桃山中学校 弘田 真基
中野区立明和中学校 金子 遥

(4) 高等学校における社会科歴史の射程

－新科目「歴史総合」1年目の実践から－

東京都立府中高等学校 大木 匡尚

(5) 歴史総合の視点からみた明治維新は生徒の回答にいかなる影響を与えるのか

－単元「国民国家と明治維新」の実践をふまえて－

東京都立江戸川高等学校 須郷 一史

自由研究発表Ⅱ－第8分科会

司会者 愛知教育大学 土屋 武志
東海大学 藤井 大亮

(1) 海域アジアの言語接触

公益財団法人東洋文庫・日本学術振興会特別研究員 PD 三王 昌代

(2) 史資料活用による歴史的思考力の育成について

－「力強い知識」論に基づいた社会運動に関する歴史単元構想の試み－

兵庫教育大学連合大学院・糸魚川市立糸魚川中学校 佐藤 優一

(3) 児童の歴史の捉え方の共通性と相違性

－学級担任のアプローチと教科担任のアプローチ－

さいたま市立川通小学校 須賀 知宏

(4) 小学校歴史学習単元における「深い学び」の実現性

－「提案する社会科」の授業実践を通して－

高知県香美市立香長小学校 茂松 清志

(5) 歴史学習における生徒の駆動性の論理

－問いの構築学習の場合－

玉川大学 宮本 英征

自由研究発表Ⅱ－第9分科会

司会者 筑波大学 金 玟辰
上越教育大学 志村 喬

(1) 「地理総合」における多文化教育の単元開発

－日本における移民を題材として－

筑波大学大学院 金久保 響子

(2) 地政学的な見方・考え方を働かせ「深い学び」を実現する歴史学習の開発

－中学校社会科歴史的分野 歴史学習のまとめでの場合－

射水市立大門中学校 龍瀧 治宏

(3) 社会科との接続を視点とした生活科における地図活用の改善

－「たんけん」を行う単元に着目して－

玉川大学 小谷 恵津子

(4) わが国における領土教育論に関する考察

－「領土軽視・否定論」批判－

群馬大学名誉教授 山口 幸男

(5) 幼小中高一貫地理教育カリキュラムの近未来社会型フレーム

－OECD『Education2030』および Society5.0 に着目して－

宮城教育大学 吉田 剛

自由研究発表Ⅱ－第10分科会

司会者 埼玉大学 小貫 篤
玉川大学 樋口 雅夫

(1) 高等学校公民科における対話活動の一考察

－2人の対話活動から見えてくるもの－

長野県松本県ヶ丘高等学校 本山 修

(2) 高校生の「問い」を問う授業の可能性について

－高等学校公民科における実践とその考察－

埼玉県立八潮南高等学校 豊岡 寛行

(3) 新必修教科目「公共」における対立概念を中軸とした「公共の扉」の単元開発

筑波大学附属坂戸高等学校 橋本 大輝

(4) 公民科における社会的課題の単元開発の改善点と方向性

－生徒の「当事者意識」の高まりに焦点を当てて－

東京都立農芸高等学校 渥美 利文

(5) 日本の高校教師は「法」をどのように捉え、授業しようとするのか

－地歴科公民科教師に対するインタビュー調査に基づく探索的検討－

福井大学 橋本 康弘
宮崎大学 吉村 功太郎
国立教育政策研究所 磯山 恭子
秋田大学 加納 隆徳
岡山大学 桑原 敏典
環太平洋大学 中原 朋生
関西学院大学 橋場 典子
亜細亜大学 三浦 朋子
東京学芸大学 渡部 竜也

自由研究発表Ⅱ－第11分科会

司会者 千葉大学名誉教授 竹内 裕一
常葉大学 安藤 雅之

(1) 社会科と総合的な学習の時間を架橋する地域連携の在り方に関する実践的研究

－新潟県上越市高田を事例として－

上越教育大学附属中学校 仙田 健一

(2) 地域教材を取り上げた社会科学習の充実

信州大学 大畑 健二

(3) 「身近な地域の歴史」の学習に適した歴史的地図情報

草津市立老上中学校・兵庫教育大学連合大学院 七里 広志

(4) 地域の教育資源を活用した社会科授業の工夫と実践

福島大学附属中学校 高橋 卓史
福島大学附属中学校 川村 国央
福島大学附属中学校 阿部 哲

(5) 学校と博物館をつなぐ学び

－松本まると博物館を事例に－

松本市立二子小学校・松本まると博物館友の会 萩原 達也

昼食

12:00～13:00

I. 社会科教育では、地域から戦争の事実をどう伝えるべきか。

〔趣旨〕戦後 75 年の歳月が経ち、戦争体験を語れる戦争時の年齢を仮に 10 歳とすれば、その人口は全人口の 5%以下になったと言われています。体験の伝承が難しくなってきた現在、教育現場では、戦争の体験や記憶を残し、継承するために、地域に残る戦争遺跡や資料館、アーカイブなどを活用する取り組みが行われています。今、社会科教育では、子どもたちに地域から戦争の事実をどのように伝えてゆくべきでしょうか。

コーディネーター 秋田大学 外池 智
鳥取大学 高橋 健司

報告

(1) 地域からの戦争の事実と現代の戦争

ーウクライナ戦争と地域の戦争の事実とを繋ぐー

都留文科大学 西尾 理

(2) 自分のことばで戦争を語る教師の育成

ー多様な「地域」・「人」の記憶を共有するためにー

帝京大学 中山 京子

(3) 米軍統治下の沖縄の歴史を全国へ

ー地域を越えた“継承”と教育実践ー

琉球大学教育学部附属小学校 下地 治人

II. デジタル社会における社会科授業はどうあるべきか。

〔趣旨〕ICT, GIGA スクールの進展により、社会科授業には質的な変化が生じています。インターネットで生徒が大量の情報に触れられる環境は、経験主義に立ってきた社会科の授業にどのような変化を起し、どのような見直しを迫るのでしょうか。また、デジタル化された社会において市民の暮らしや政治はどのように変化し、どのようなリテラシーの育成が求められるのでしょうか。

コーディネーター 帝京大学 鎌田 和宏
千葉大学 戸田 善治

報告

(1) 自ら知識を構成し学び続ける子どもを育てる社会科学習

ーICT 活用と作品化を手立てとしてー

東京学芸大学附属世田谷小学校 岸野 存宏

(2) 社会科におけるデジタル・シティズンシップ育成に向けたリテラシー教育

ー「市民的オンライン推論能力 (Civic Online Reasoning)」に着目してー

茨城県立並木中等教育学校 後藤 慎太郎

Ⅲ. 社会科・社会系教科は総合的学習とどのように連携できるか。

〔趣旨〕社会科において地域課題をテーマとする時、十分な活動を行うには総合的学習との連携が必要となります。総合的学習で平和、人権、SDGsなどの広いテーマを扱う場合も、社会科の内容との連携が必要となります。小・中学校はどのように連携しているのか。「総合的な探究の時間」が始まった高等学校ではどのような連携ができるのか。そこにはどのような問題があるのか。多様な角度から検討してゆきます。

コーディネーター 山形大学 江間 史朗
広島大学 永田 忠道

報告

- (1) 小学校社会科と総合的な学習の時間の合科的な指導の検討
ー第6学年単元「ひがしね住みよきUPプロジェクト」の開発を通してー
山形県東根市立大森小学校 山田 浩行
- (2) 「思いや願い、問い」から始まる探究的な学び
ー総合的な学習の時間と社会科のつながりからー
信州大学教育学部附属松本中学校 高橋 堅
- (3) 高校魅力化における総合と地歴公民の往還の可能性
ー総合を基軸、地歴公民を起点とした学校全体への広がりー
広島県立大崎海星高等学校 取釜 宏行

Ⅳ. 社会科では、子どもの学習状況をどう見取り、評価するか。

〔趣旨〕子どもの学習状況の見取りや評価のあり方は、時代の潮流や社会の変化とともに、問われ続けています。昨今では、学習指導要領の全面実施に伴い、学習評価及び指導要録の改善等に関する通知に基づき、新たな学習評価が行われることとなりました。具体的な社会科の授業実践を踏まえて、これからの子どもの学習状況の見取りや評価のあり方について、議論を深めていきたいと思えます。

コーディネーター 国立教育政策研究所 磯山 恭子
群馬大学 宮崎 沙織
コメンテーター 玉川大学 樋口 雅夫

報告

- (1) 小学校における子供の学びを確かにする学習評価の工夫と実際
ー学び方カードを活用した主体的に学習に取り組む態度の育成ー
新宿区立四谷小学校 石井 正広
- (2) 「学びのあしあと」を活用する学習評価実践の効果
ー社会情緒的コンピテンスに着目してー
四日市市立富洲原中学校 松村 謙一
- (3) 多様な立場からの評価を通じた課題解決プログラムの実践と課題
ー行政や専門家及び高等学校の連携を通じた課題解決プログラムを通してー
鳴門教育大学 井上 奈穂

大会参加要項

- (1) 自由研究発表は、Zoom を用いて行います。発表時間は、発表 20 分、質疑応答 10 分の計 30 分です。発表と発表の間に 5 分のインターバルを取ります。会場を移動される場合は、その間にお願いします。
- (2) 参加者のみが入ることができる大会 HP の PW などは 10 月 20 日 (木) までに、参加の事前登録をしたメールアドレスにお送りします。なお、本メールは大会事務局よりお送りします。
- (3) 当日の資料は、Web 上に掲載いたします。受付は本学会 HP の【大会発表資料アップロードフォーム】にて行う予定です。資料の容量は 5MB までとして、PDF にして 10 月 10 日 (月) までにアップロードしてください。これら当日の資料は、参加者登録をした者のみ入ることができる Web 上にアップロードをして、2 週間の資料閲覧を可能にします。
- (4) 発表論文集が 10 月 20 日 (木) までに届かない場合は大会事務局までお問い合わせください。
- (5) 問い合わせ先
住所：〒380-8544 長野県長野市西長野 6 のロ 信州大学教育学部内
日本社会科教育学会第 72 回全国研究大会事務局（担当 篠崎 正典）
E-mail : jass72shinshu@gmail.com
※お問い合わせ等は、メールにてお願いいたします。